

階級的労働運動再生の手引き

労大ハンドブックⅢ『やがてくる日』に学ぶ

第6回 東京ブロック

第六章 長計闘争から到達闘争へ

司会（佐久間）…今回は、第六章 長

計闘争から到達闘争へ、三多摩県協の古賀保行さんのレポートに学んでいきたいと思います。

その前に、これまでの第一章から第五章を簡単に整理します。

これまでの整理

第一章 総資本と総労働の対決

「三池と安保」激しい闘い

1946年三池炭鉱労働組合を結成した当初は「三井さんのお陰で」職につけた、文句を言ったら罰があたると

いうように「眠れる獅子」と言われる状態でした。

亡き九大教授・向坂逸郎先生の「労働者とともに学び、たたかう」という思想指導、塚元敦義さん、灰原茂雄さんの「一生たたかい続け、学び続ける」という構えと具体的な一歩前指導があり、その指導が発揮され、運動が広がっていきました。

三井資本は、首切り反対を掲げる組合の団結の前に取えて操業停止、ロックアウトを通告。三池労組は「炭鉱労働者の11万人首切り反対」を指標に無期限ストライキに突入、総資本と総

労働の対決が313日間続きました。

第二章 前史は囚人労働

三池炭鉱が形成され労働運動がどのように発展してきたのか、歴史的に述べられています。

三池炭鉱の歴史は、囚人労働から一部の労働者をはつきり差別することで、一般の労働者と分断を図ることも、優越感をあおり立てながら懐柔していくという、差別支配政策が一貫して追求されてきました。

明治時代の過酷な囚人労働、それが1930年の廃止まで続き、廃止され

◆みんなの学習講座

たあととは、奄美の与論島出身者を連れてきて差別支配の対象として、戦時中は、朝鮮人と中国人、諸外国の捕虜がその役割を担わされたのでした。

第三章 眠れる獅子の目覚め

敗戦直後の占領下、三池炭鉱労働組合が結成されましたが、「生産なくして労働運動なし」という、「労使共同」で経済復興をめざした組織でした。

しかし、三池労組のうちに「民主主義の気概に燃えた労働者に、正しい生き方の息吹を与えた」のが、向坂逸郎九大教授でした。

向坂教室…研究会の基本的な考えは、「原始時代から共産主義社会に至るどんな時代でも、社会を支えるものが人間の労働である」ということでした。

三池労組は、学んでたたたかい、たたくって学び、かくて辛苦のたたかいは中から成長していきました。

それは、研究会の主眼は「労働者が

社会の主人公、職場の主人公であることを学び、実践してゆく労働者づくりであり、粘り強く会員の広がりを目的意識的に追求した」からです。

第四章 貴重な教訓

63ストと主婦会結成

三池労組では、教育・宣伝・学習活動が推進されてきました。その前段に向坂教室が始まり、向坂逸郎先生が、強調したのは「労働者がいなげりや物の生産はできない」と、まず労働者に誇りを持たせて、古典から学ぶことを粘り強く追求されました。「活動家を発掘する学習運動として展開され、社会主義を目的意識的にめざす」研究会でした。

1952年、総評大会で採択された賃金綱領「マーケット・バスケット方式で闘うが『ゼロ回答』に、炭労は無期限ストに突入。初めて長期の63日間にわたるストライキをたたかい、

「労働者の連帯感を強めることができた」成果と、「幹部闘争から大衆闘争への脱皮へ」課題が明らかになりました。それを克服する、地域分会・主婦会結成という組織的な前進を勝ち取ることができました。

第五章 英雄なき

113日のたたかい

職場分会と地域分会、差別と弾圧のなかで結成されて間もない主婦会と一体となった大衆行動により、指名解雇を含む企業整備の白紙撤回を勝ち取る大きな成果も得ました。と同時に、闘いに対する大きな自信を与えたと共に、同志的な連帯意識を一段と高めました。物とりの視点ではなく、階級的視点の塚元敦義さんは、「①三井資本の意図は、企業連である三鉱連の分断。②職制による肩たたきという内部の分断。③部分スト戦術を取り入れ、最小の規模で最大の打撃を与えた」と総括して

います。

司会（佐久間）…お待たせしました。それでは、古賀さん第六章のレポートをお願いします。



レポーターの古賀保行さん

古賀…「英雄なき113日のたたかい」で首切り撤回を勝ち取った三池労組ですが、次のたたかいに向けて組織強化に取り組みます。

職場の民主化・職場闘争・

一つ目には、職場から差別をなくすたたかいです。当時、職制は労働者が年上であっても名前を呼び捨てにしていました。これを、きちんと「さん」

づけさせることから始めました。また仕事の配役が職制の独断になっていたのを平等に輪番制にするなど職場の民主化に取り組みました。三池では、こうした職場闘争が地道に展開されました。

家族ぐるみの運動

二つ目には、組合員のたたかいを支える家庭の民主化改革です。組合員の家庭が借金漬けではたたかいになりません。組合では生活実態調査に基づき労金から2億7000万円（組合員一人平均5万8000円）借り入れて個々人の借金を一掃しました。また賃金は貰ってもすぐには使わずに一日寝かせることに取り組みました。

どう使うか家族で相談して計画的に使うためにです。こうした「生活革命運動」で家族ぐるみの団結を作っていました。

地域闘争・政治闘争・

三つ目には、地域へのたたかいを広げたことです。三池炭鉱のある大牟田、荒尾の両市長、県議2名、市議も各8名ずつ勝ち取りました。800軒も組織して「革新商店連盟」と労商提携へと広げました。このたたかいの基礎にあるのは組合の学習でした。三池で言われる「学習の大海戦術」が組合員の権利意識を高めました。

「長計協定」にある

資本側の裏の狙い

こうした組合の努力が積み重ねられる中でも三井資本は、石炭産業斜陽化を背景に合理化をかけてきました。組合側はこれを「経営変革闘争」と位置づけ立ち上がり、勝ち取ったのが「長期計画協定」です。「クビは切らない」「労働条件は引き下げない」「保安は優先」という内容です。この協定は組合の闘争力で勝ち取ったもので三



「生活革命運動」の先頭に立つ主婦会

テキスト33ページ

井側も大きく譲歩した協定です。しかし三井側にも、裏の狙いがあったのです。それは「休戦協定」「平和協定」という側面があったのです。

到達闘争と43スト

職場闘争も分会の力量の違いから不均衡発展があり労働条件が違っていました。組合では、遅れたところは進んだ分会に追いつき、追い越せの「到達闘争」に取り組みました。三井側は職

場交渉権を認めないという立場で職制の権限も吸い上げました。組合では、43日間のストを決行しますが最後まで平行線で終わりました。

「三田村学校」などのインフォーマル組織などで組織の切り崩しに取りかかり、職場闘争の圧殺も合わせて組合組織の弱体化に取りかかりました。

学習運動から職場の民主化

司会（佐久間）…古賀さんから、職場の民主化、家族ぐるみの運動、地域闘争、「長計協定」、到達闘争と43ストについてレポートしていただきました。質問や疑問を出してください。

芳賀…今「オイ、コラ」と言ったら「パワハラ」で訴えられるからないだろうが、当時はあたりまえだったみたいです。私は1974年入社で駅職場の「作業タイヤ」がありました。私の一回り先輩たちが入った時は、「新人

で入ると何時間もパンチ（切符に入场印を入れる鋏）を持たされた。真冬にストーブのマキ割もやらされたが、そのストーブにもあたれなかった」と聞きました。

司会（佐久間）…駅職場は「完全補充」の職場だから、「用事があり休みたい」と言うとか職制から「代わりを見つけてから言え」と言われ、休みづらかったそうです。

高井…当時の営団地下鉄も同じでしたが、三池のたたかいに学んだ先輩たちの指導で「社青同」「まなぶ」の仲間が学習し、労働者の権利意識が向上し、職場の民主化をしてきました。

島田…私は1960年生まれです。三池にも行っていないので、社宅の「世話方制度」とはどういうもので、どんな役割ですか。

古賀…当時の炭鉱の職場はどこでもそうですが、鉱山の近くに、昔のドラマに出てくるような木造長屋が数多くあ



1955年5月1日、第26回メーデー

労商提携で参加の三井専門店

テキスト34ページ

った。その社宅に住む労働者・家族を管理するために、会社の意をくむ人を「世話方」に任命していました。

世話方の権限が絶対だったが、テキスト32頁にあるように「当初の組織率65%で出発した主婦会も、ほぼ全員の組織化」を勝ち取り、「1955年に差別支配のクビキとなっていた世話方制度の廃止」を勝ち取りました。

労働運動を家庭のなかへ

司会（佐久間）…家族ぐるみ・家庭の

民主化という課題は、東京では進まない問題ですね。皆さん、どうですか。

芳賀…三井労組のように、労働組合が管理して「労金から借り入れて組合員の借金返済し、組合員の生活改善をした」ケースは非常に少ないと思います。

私も先輩の後を引き受けて、分会長を4年ほどやりました。その間、借金を抱えた組合員数人の案件を、その組合員の友人、家族、労金と相談してやったことはあります。しかし、賃金を一旦寝かせて、家族で何に使うのか家族会議で決めよう運動まではいっていませんね。

田口…男尊女卑じゃないけど、炭鉱の過酷な労働の不平不満を「のむ、うつ、かう」という利根的な生活態度になる背景はそれなりにわかります。

営団地下鉄にもそういう人は何人もいて見てきたし、個人的にも関わってきました。現在もその延長線上で関わっている方はいます。

古賀…職場闘争、地域闘争、家族ぐる

みの運動の発展は、労働者階級としての三井資本とたたかうだけでなく、資本主義という制度自体を打倒しなければならぬという認識を育てていきました、と提起されています。

司会（佐久間）…古賀さんの言う通りですね。「言うは易く行は難し」です。

労働者の市政・県政へ

福田…テキストには、「三井の市政・県政から、労働者の市政・県政へ」のスローガンで1955年の統一自治体選で、大牟田・荒尾両市の市長、県議各1名・市議各8名全員の当選とあります。現在も、荒尾市は新社会党公認の市議4名当選しています。たたかいが継承されていますね。

田口…今参院選で与党が半数割れになったが、参政党など「核武装が必要」

◆みんなの学習講座

という層が多数を占めて、平和憲法の改悪が懸念されています。

経営変革闘争と長計協定

司会（佐久間）…テキスト 35 頁に、組合の主張を全面的に認めた「長期計画協定」をかちとることができたが、塚元敦義さんは「クビを切らない」「労働条件は下げない」「保安を優先する」というこの協定は、本来、資本主義社会のなかではかちとることのできない性格のものだと提起しています。

高井…テキスト 34 頁に、3 点の合理化案を受けて三池労組は、113 日のたたかいの経験から「首切りがされてからハチマキをしめてもおそい」という基本的な立場にたつて経営変革闘争を「自走勾配戦術」によって大きく前進させた「長期計画協定」をかちとることができた、と載っています。

福田…内容は素晴らしいものですが、

通常は考えられないと思います。

槍崎…それだけ、三池の大衆行動、学習闘争、職場闘争、地域共闘などがすごく、三井資本はやむなく結んだと思います。

司会（佐久間）…その通りだと思うよ。
島田…この長計協定は、職場闘争の成果が集約されたものですが、「一步誤れば、たたかいより話し合いが優先し、労資運命共同体であるかのような意識が作り出されていく危険性を含んでいた」と、指摘しています。

今、私の所属する私鉄総連は、残念ながらそうなっています。

司会（佐久間）…皆さんが言うように、「休戦協定という平和協定を結び職場闘争をおさえこんでいくことに真のねらいがあるのではないか」と、結んでいるように、どの資本も「職場闘争を抑え、話し合い路線に引き込もう」とする狙いは一緒ですね。

最後に、到達闘争と43ストについて

て、要点整理をお願いします。

高井…職場闘争は営団地下鉄の経験でもそうですが、分会の力量の違いで不均等発展します。「遅れた意識の一步前のたたかいを組み、進んだ条件の職場に追いつけ、追い越せ」という到達闘争が重要ということです。

この格差是正のために、「三段階方式」や「三権委譲」のたたかいは43日間のストライキで收拾せざるを得なかった、ということです。

司会（佐久間）…今回、古賀さんからの的確なレポート提起を受けて、皆さんの相互討論で、三池の学習闘争、職場闘争、家庭の民主化と家族ぐるみ、地域共闘と政治闘争などを学んできました。

今回は、第七章 60年 三池闘争 313日の激闘（その1）を行います。レポートは、東京東部県協の仲間から報告してもらい学び合います。